

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本内科学会
理事長 矢富 裕

[分科会としての活動]

I. 当学会独自の活動

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

100年を超える講演会事業と学術誌刊行事業が当学会の学術的な観点からの活動の柱であり、内科学の進歩普及を図り、我が国の学術の発展に寄与していると認識している。

イ) 定期的な学術講演会、研究会の開催

毎年4月に開催している年次講演会、毎年秋に地方都市で開催している内科学の展望、年に6回主要都市で開催している生涯教育講演会、支部事業として全国10支部にて毎年20回前後開催している地方会、支部開催の生涯教育講演会等が主なイベントである。

ロ) 定期的な学術誌の刊行

和文誌「日本内科学会雑誌」(毎月11万2千部発行)、オンラインジャーナルとして掲載している英文誌「Internal Medicine」(年24回(月2回)発行)が定期的な学術誌の刊行である。

ハ) 研究の奨励及び研究業績表彰

若手会員育成のため、「内科学会奨励賞」受賞者を毎年表彰している他、ホームページ上での研究論文・奨励賞の公募情報の掲載、発表機会の提供等を実施している。

b. 当該領域における国際的な役割

イ) 我が国においてしっかりとした医学研究、臨床実績を築くことが重要と考えている。また前掲の「Internal Medicine」も国際的な医学発展に寄与していると認識している。

ロ) 国際内科学会に毎年委員を派遣してその活動を積極的に支援している他、米国内科学会との間で理事長の総会参加や年次講演会での共同プログラム実施等を通じて連携を深めている。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

イ) 専門医制度事業

約50年間にわたる認定医制度(専門医制度)事業等を通じて内科専門医の育成に積極的に取り組んできたが、2014年に発足した日本専門医機構を中心とする専門医制度の再整備の中で、内科領域を代表する学会として参加して新専門医制度の再構築に協力している。

また、新専門医制度の再構築への協力と並行して、専門医制度の定例業務として、各資格認定試験の実施、専門医制度有資格者の認定更新管理、教育認定施設の認定、内科専門研修プログラムの審査と管理、内科救急講習会(JMECC)の開催等を実施している。

当学会の事業は、講演会事業や学術誌刊行事業、上記専門医制度事業等が柱であり、内科医の一層の質の向上に向けた新しい専門研修プログラムの充実やより質の高い医師生涯教育の普及等の活動を通じて、「より良い内科医」の育成を図っている。

その他にスポット活動も含めて実施してきた社会的に意義のある主な活動は以下の通りである。

ロ) 社会への提言・声明・宣言等の発信

「超高齢化社会で果たすべき日本内科学会の役割と責務」の発信等

ハ) 関係団体（日本専門医機構、日本医学会連合、内保連等）への人材派遣・負担金の支援+

ニ) 災害医療に関する資料のホームページ掲載等を通じた災害医療支援活動の実施

ホ) 地域医療ワーキンググループでの活動

ヘ) 男女共同参画ワーキンググループでの活動

ト) 禁煙推進学術ネットワークの活動への参画

チ) 疾病及び関連保険問題の国際統計分類（ICD）の改定作業への貢献

リ) 「AMED 臨床研究等 ICT 基盤構築研究事業」への協力

ヌ) オンライン診療の適切な実施に関する指針の見直しに関する検討

ル) 日本医師会「アンメットメディカルニーズ調査」に関するアンケート実施協力

ヲ) 「医師のセカンドキャリアと地域医療を支えるネットワーク」事業への協力

ワ) 内保連の要請を受けた診療報酬改定への協力

カ) 「新型コロナワクチン接種医師確保事業」への協力

d. 学会運営上留意している点

イ) 社会からの要請も大きいコンプライアンスやガバナンスを重視して運営している。

ロ) また、男女共同企画については、ワーキンググループを組織して積極的に推進している。

その結果、評議員に占める女性の割合の増加や女性理事の実現等を達成している。

ハ) 内科学会は大学、大学病院勤務のみならず、開業されておられる先生方も多いため、そのような方々にも役立つ情報提供に意を砕き、一体感を醸成するように努めている。

II. 他の分科会等との連携活動

イ) 専攻医登録評価システムの日本専門医機構や内科系サブスペシャリティ学会への利用開放

ロ) 日本病理学会との剖検に関する合同アンケートの実施・公表

ハ) 内科領域とサブスペ領域との連動研修についての共同声明発表

ニ) 脳心血管病協議会からの依頼に対する協力

ホ) 日本感染症学会と合同で COVID-19 合同声明文を発表

ヘ) 内科系関連 15 学会で COVID-19 対策チーム設立

ト) 疾病予防（リスク病態も認めない集団に対する 0 次予防も含めて）への取り組み

チ) 「日本版敗血症診療ガイドライン 2020」の後援依頼

[当学会から日本医学会への期待・要望]

専門医制度をはじめとして、アカデミアの代表としての日本医学会のさらなる積極的な発信・発言を期待する。